



自分、という肩書で働く。
支え合うから、挑戦できる。

協同労働という選択。



南東北事業本部



誰かの「こまった」や「あったらいいよね」。
その小さな声をきっかけに、新しい仕事をおこす。
みんなで出資し、一人ひとりが経営を考え、
意見を出し合い、自分事として運営していく。
雇われるのとはちがう、誰もが主人公の働き方。
それが、協同労働です。

私たちがめざすのは、
誰一人取り残されることなく
働きたいすべての人が働き、
誰かの役に立つ喜びを得られる社会。

その起点として、
誰もが地域に関われる居場所づくりや、
地域資源を活かした仕事おこしを通じて、
一人ひとりが自立し、また手を取り合って、
働き、生きる、協同労働を推進しています。

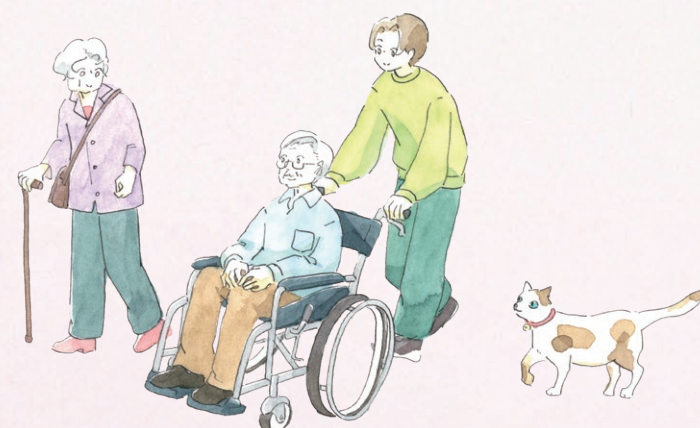
協同労働という選択。
ワーカーズコープ



協同労働の協同組合の原則

協同労働の協同組合は、共に生き、共に働く社会をめざして、
市民が協同・連帯して、人と地域に必要な仕事をおこし、
よい仕事をし、地域社会の主体者になる働き方をめざします。

- 1 仕事をおこし、よい仕事を発展させます
- 2 自立・協同・連帯の文化を職場と地域に広がります
- 3 職場と地域の自治力を高め、社会連帯経営を発展させます
- 4 持続可能な経営を発展させます
- 5 人と自然が共生する豊かな地域経済をつくり出します
- 6 全国連帯を強め、「協同と連帯」のネットワークを広げます
- 7 世界の人びととの連帯を強め、「共生と協同」の社会をめざします



INDEX	03 仕事おこし	04 多様な仲間	05 協同労働とは	06 生き方・働き方
	07 地域づくり	08 全国ネットワーク	09 国際的な活動	10 組合員からのメッセージ

いま、地域に 本当に求められていることを、仕事に。

誰かの困っている声をきっかけに、新しい仕事をおこす。
その仕事で、仲間を生み、経験と成長を生み、
豊かな生活と幸せにつながっていく。



私たち、こんな仕事をおこしました

みんなの居場所を守りたくて。

おひさまの杜保育園（子育て支援事業／仙台市）

委託運営をしていた病院内の認可外保育園が閉園することとなり、「子どもたちの居場所をなくしたくない。自分たちの居場所も守りたい」と職員の思いがひとつに。元の場所を活かしながら新しい保育園をつくる「仕事おこし」が始まりました。事業所の組合員に賛同を得て、病院や仙台市と協議を重ね、調理室も増築。何度もくじけそうになりながらも無事開園し、今では認可保育園に。一人ひとりが精一杯、自分にできることに取り組み楽しむ、そんな職場になりました。



語り合った夢を、自分たちでカタチに。

ポラーノの椅子（高齢者関連事業／仙台市）

「がんの患者さんやご家族が、言葉にしにくいような心の底の思いを、気兼ねなく話せる場所をつくりたい」と、緩和医療現場で働いていた仲間同士、カフェで語った夢が「仕事おこし」の第一歩に。地道に活動するうちにワーカーズコープと出会い、経営ノウハウのバックアップを得て今の施設を実現。ケア×アートをコンセプトに、地域密着型デイサービスと訪問看護をメインで展開。音楽療法や聞き書きなど日々を豊かにするケアが溢れる場として地域に息づいています。



● 仕事おこしのプロセス

利用者や地域、 組合員の声を形にする

地域の現状を肌で感じている事業所の組合員が主体となり事業を計画。事業本部にも相談・協力をお願いしますが、基本的に事業所単位で運営します。

どんなものにする？ どこでやる？

どんな事業にするのか。何が必要なのか。全国組織の強みを活かして情報収集。失敗談を教訓にすることもできます。

お金や働く人、 問題は話し合って解決

今いる組合員だけでいいのか。新たな仲間が必要なのか。どのくらいお金がかかるのか。みんなで課題を共有して解決策を模索します。

事業所単位で 団会議を開く

事業所の規模はさまざま。人数が多いところでは総意を得るのは簡単ではありません。話し合いの中でネガティブな思いに寄ってしまうこともあります。

事業を継続できるように 創意工夫

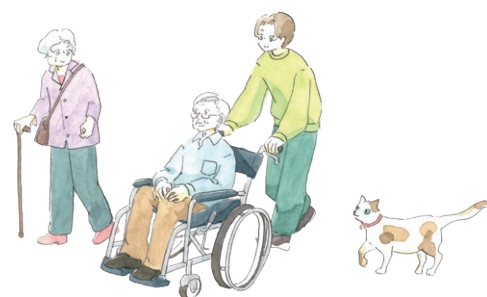
仕事をおこして継続させ、経営を成立させるということは、困難も多くあります。それらもみんなでアイデアを出し合って柔軟に解決していきます。

いろんな個性を認め合い、 思いやりの輪を広げる仕事。

人間は一人ひとり、みんなちがう。

得意なことも、できないことも、抱えている事情も、全然ちがう。

だから力を合わせる。だから思わぬ力が生まれる。



いろんな仲間と、力を合わせています

「地域の一員」になれたと実感。

ともにま道（障がい者支援事業／亶理町）

障がいのある仲間と共に、お弁当やお惣菜の製造販売、直売所の運営、農園作業などを行っています。地域行事への参加やフードドライブといった地域活動を通して、地域の方の偏見や誤解が少しずつ解けて、「共にいる当たり前」が広がっていると感じます。異なる背景や経験を持つ仲間との会話からアイデアが生まれ、新事業につながることも。今後は「住居支援」へもすそ野を広げ、誰もが安心して暮らせる地域であり続けるように、支援を広げていきます。



個性を理解し、話し合いながら。

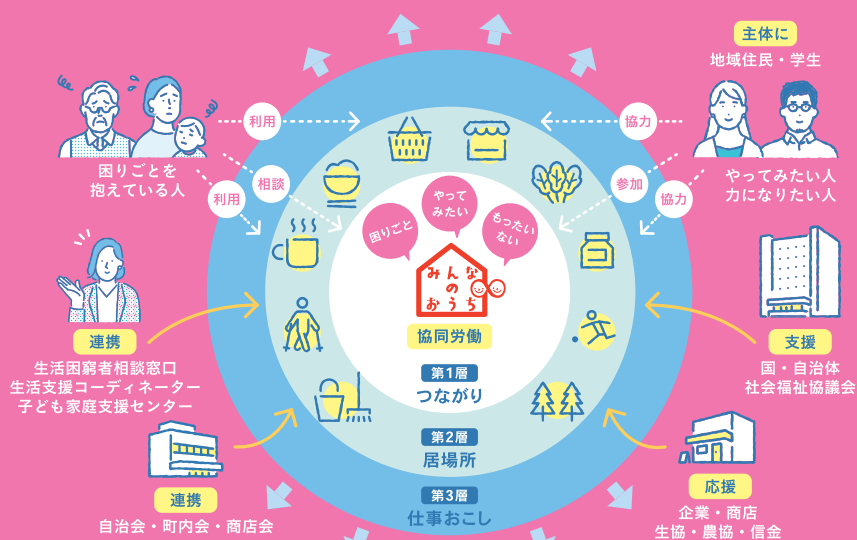
ピアサポートセンターそら（障がい者支援事業／仙台市）

精神疾患の経験を、誰かの支援に活かしたい。そんな思いでピアヘルパー講座に集まった仲間同士が、居場所をつくろうと話し合い、カフェを運営しながら清掃も行う新拠点が生まれました。組合員も就労支援利用者も対等に話し合い、誰もが主体的に取り組むことを重視。子ども食堂や駄菓子屋も、利用者の発案で始まりました。共に過ごす中でこそ築かれる関係性を大切にすることで、自然な助け合いが生まれていると実感する日々です。



● 声が集まる地域拠点「みんなのおうち」を運営

「みんなのおうち」は、誰もが気軽に集まれる居場所。困りごとを話したり、自分ができることで誰かを支えたり。さまざまな取り組みが生まれています。



誰もがいつでも帰って来られる居場所。

みんなのBASE（仙台市）

南東北エリアの各所にある「みんなのおうち」は、地域ごとに運営スタイルや事業内容が異なります。共通しているのは「自分の意思で来られる場所」であること。「みんなのBASE」は、コロナ禍に行き場を失った中高生のためにオープンし、今では赤ちゃんからお年寄りまで、年齢、性別、国籍を問わず多様な方が利用する、「ごちゃ混ぜの居場所」に変化しました。誰もが安心して居場所づくり活動を、これからも広げていきます。



自分で出資し、経営し、働く。 手を取り合って、地域を元気に。

自分の挑戦に、責任を持つ。だから本気で取り組める。
決められた枠にとらわれない。だから仲間を増やしていける。



協同ってなんだろう？みんなの座談会を開きました 組合員 × 利用者 × 地域住民

ワーカーズコープでは、組合員同士の協同はもちろん、施設の利用者・家族をパートナーと捉えて、一緒に事業をつくり上げる姿勢を大切にしています。地域の方々には事業活動への協力をお願いするだけでなく、地域の困りごとと一緒に解決できる関係づくりを広げています。今回は「成川みんなのおうち保育園」(福島市)に関わる三者が集い、それぞれの立場から思いを伝える座談会を開きました。

みんなの居場所として、一緒に育てていくということ。

施設の入口には、その日も掘りたてのジャガイモがごろごろ。近所にお住いの矢吹さんの畑を借りて、子どもたちが育て収穫したものです。「自分で育てた野菜を給食で食べられる食育ができるのは、すごくありがたい」と栄養士の大河が日頃の感謝を伝えました。2歳児担任の霜山は「次はこんな野菜をつくりたい！子どもたちの思いを、毎年矢吹さんに相談しています」と楽しそうに話します。

畑以外にもさまざまな関わりを持つ矢吹さんは、「ここが一緒に地域を変えていける拠点になれば」と期待を込めます。息子が卒園児の石橋さんは、園で行われる地域イベントに積極的に参加。「ここはいつ



でも帰って来られる、もう一つのおうちみたいな場所」と言います。保護者のお二方からは、「すべての先生が子どもの様子を教えてくれるきめ細やかな保育」や「地域とのつながり」の魅力が語られました。主任の三浦は「みなさんからの言葉がうれしい」と笑顔に。施設長の安藤は「みなさんには、一緒に居場所づくりをする応援団になってほしい」と伝え、自身は地域の方の課題を聞いた時、アイデアが溢れて一人で突っ走ってしまうことがあったと振り返ります。仲間に思いを打ち明け、お互いに気持ちを理解して、一緒に進んでいきたい。「いつも本当にありがとう」という言葉と共にそう締めくくりました。



● 協同労働を実現する法人格「労働者協同組合」とは

労働者協同組合とは、働く人がみんなで出資し、一人ひとりの意見を反映して運営を行い、よい仕事や地域づくりをめざしてともに働く、協同労働を実現できる法人格です。

労働者協同組合法が制定されました。

2020年12月4日、労働者協同組合法が制定され、要件を満たせば誰でも労働者協同組合を設立し、法人格を得ることができるようになりました。一人ひとりの主体性と意見を大切にしながら、社会から必要とされる仕事を働く人たちが力を合わせてつくりことができる「協同労働」にふさわしい法人のあり方が、これから社会に広がっていきます。

労働者協同組合法、3つの基本原理。

労働者協同組合には組合員による自主的・自律的かつ民主的な事業経営を可能にするために、3つの基本原理が定められています。

① 出資

組合員の出資金によって事業経営を行うこと。

② 意見反映

組合員の意見を反映して事業を行うこと。

③ 事業従事

組合員が組合の行う事業に従事すること。



誰もが、自分らしく生き、 働き続けられる世の中をつくる仕事。

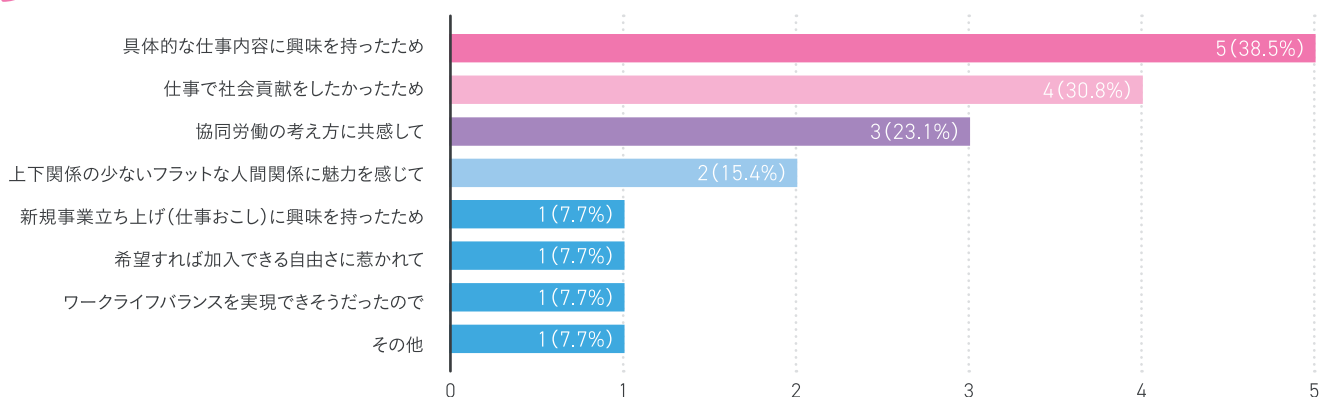
社会課題に挑戦する風土、仲間を支え合うフォローシップ。
関わる人すべての力が循環し、成長していく、
そんな組織をみんなで育てている。



入団した理由や経験について、20代の組合員9人に聞きました

Q1

ワーカーズコープに入団した理由は何ですか？（複数回答可）



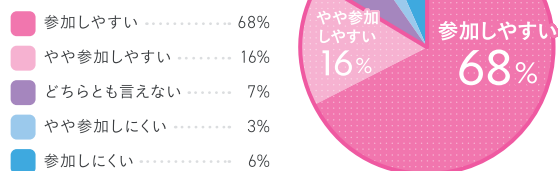
Q2

ワーカーズコープだからこそ経験できたことや、印象に残っていることは何ですか？

- 地域の方との距離の近さに驚きました。お祭りに参加したり、イベントのお手伝いをしたりとさまざまなことで関わっています。
- 自分の意見が言えること。わからないことがわからないとき、気軽に相談できること。
- 自分たちで考えて経営に関わること。
- 多くの会社や団体と異なり、さまざまな人が関わってくれる開かれた事業所。
- 年1回ある、よい仕事の報告がすごくいいと思います。各現場のいろいろな報告が聞けて、自分自身が気付ける場です。
- メインの事業と並行して社会連帯活動をしていること。地域により密着した活動ができ、高齢の方の移動支援や居場所づくりの機会があります。
- 各児童館の子どもを連れて登米に行き自然に触れる「プレーパーク」がとても印象的でした。
- 地域のイベントが楽しくて、いつもは自分の意見をあまり言わない子も、積極的に参加してくれました。

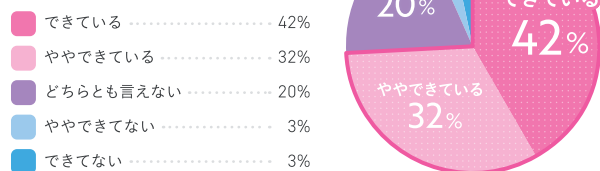
Q1

話し合いには参加しやすいですか？



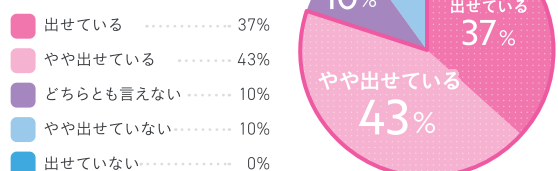
Q2

全員が発言できていますか？



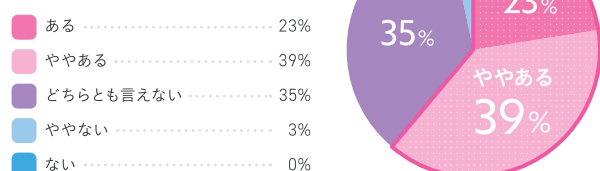
Q3

話したい議題を出せていますか？



Q4

話し合いを経て変化はありますか？



31の事業所での話し合いについて、

自然と共に生きる 豊かな地域を創造していく。

地域の資源をしっかり生かして、
食もエネルギーもケアも、自給・循環させていく。
誰もが安心して集え話せる、そんな居場所を拠点として。



地元の方の声から生まれた事業もあります

震災後の女性支援施設が再出発。

YUTTARI（障がい者支援事業／石巻市）

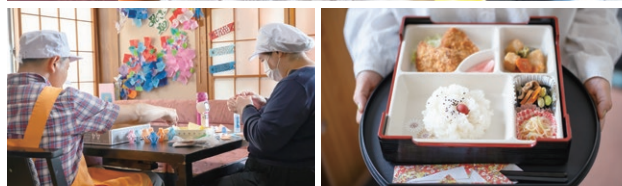
前身は、震災後に仕事を失った女性たちが働く居場所として立ち上がった「GAGA家」。その継続運営のために、障がい者の就労支援も必要という声を取り入れ再スタートを切りました。就労に向けたステップアップのために通う利用者一人ひとりの得意を活かして共に働いています。地元の水産会社からの仕事や、地域に出向いてのランチ販売（手作りかりんとうが人気商品）、清掃活動やお祭りへの参加。地域に根差した場所として一日一日を重ねています。



地域の方の心と暮らしに寄り添い続ける。

まるちゃん家（障がい者支援事業／大崎市鳴子）

“仕事おこし”のきっかけは、「障がい者の働き場所が必要」という地域の方々の声でした。障がい者就労支援という新事業を始めた当初は、まず近所のみなさんが気軽に来られる場づくりをしようと、たこ焼きイベントを企画。カフェ運営も始め、地域の居場所となるうちに、事業所の利用者も増えていきました。利用者をつくったお弁当を配達に行く時に、高齢者宅では安否確認も行い、地域の見守り活動にも貢献しています。※カフェは現在完全予約制



● 持続可能な地域づくりで大切にしているポイント

働く人にとっても 大切な居場所にする

どんなことをしていきたいのか。
どんな事業所にしたいのか。明日
もここに居たいと思える、私たち
の居場所にするために、お互いを
尊重した対話と話し合いを大切に
します。

当事者が主役、 支援する、されるの関係を越えて

施設を利用する高齢者や困難を抱え
た方こそが主役となれる事業をめざ
して、時には利用者が他の誰かの役
に立てるような、一方的な関係を越
えた“共に生きる”を実現します。

新たな出会いからつながり、 地域とともに

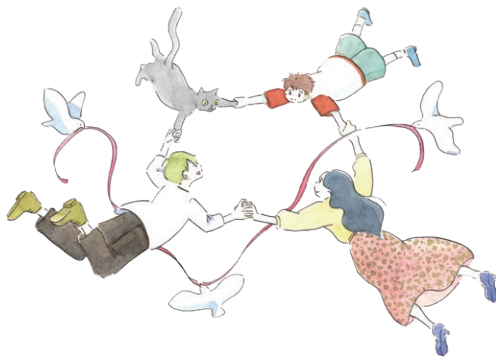
事業に留まらずに地域のお祭り
や、子ども食堂などの居場所づくり
も、地域のみなさんと一緒になって
取り組んでいきます。活動の幅を
広げていく中で新たな人と出会い、
また新たな課題や取り組み
テーマが生まれます。

多様な需要を受け止めて、 多彩な人の活躍の場へ

地域にある多様な願いや困りごとを
自分事として受け止めて、新たな仕
事おこしにつなげていくことで、事業
が変化し、成長していきます。地域の
さまざまな人と一緒に地域の課題に
取り組むことで、持続可能で活力あ
る地域と一緒につくっていきます。

仲間が、全国各地にいる という働き方。

全国にいる仲間と、交流し学び合える。
地域の組織や、学校や、専門家と一緒に、
すべての命が尊重される世の中を追求していく。



● 数字で見るワーカーズコープ

事業所・出張所数

現場数



404 箇所



1,348

組合員数



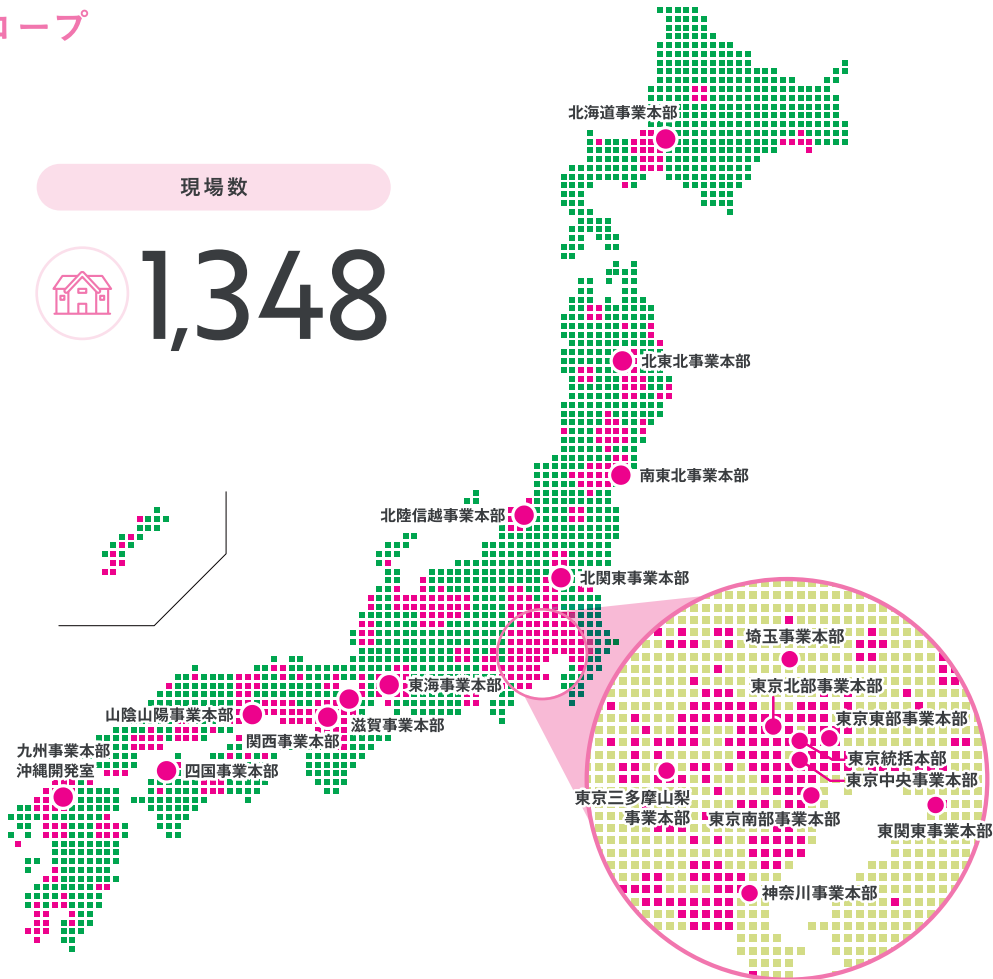
7,919人

事業高



259 億円

※2023年度



業種別現場数

子育て支援	373	高齢者施設の管理運営	38	製造・加工・販売	3	売店・直売所	14
保育(園)	37	若者支援	34	農林業	9	屋外清掃(公園・霊園清掃)	8
障がい児通所施設(障がい児支援)	110	生活・就労・相談支援	20	BDF	3	緑化、廃棄物収集運搬	9
総合支援(障がい者・児支援)	111	生活困窮者支援	85	建物管理	195	クリーンキラー製造・販売	3
障がい児/者支援	9	食堂・喫茶・配食	18	建物総合管理業務	43	講座	5
介護保険・地域生活支援	111	施設給食・調理補助	11	公共施設の管理運営	38	その他	21
高齢者支援	18	配食サービス	6	物流関連	16		

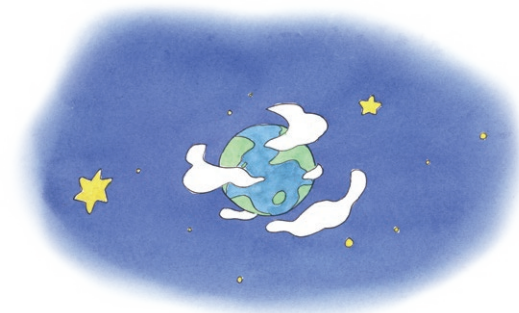
● 「よい仕事」に学び合い、これからの展望する全国集会

ワーカーズコープ連合会は、毎年多様な全国集会を開催しています。分野をこえて「よい仕事」をシェアし、各地の個性あふれる実践に学び合う「よい仕事研究交流全国集会」や、投票により優秀賞が決定する「よい仕事コンテスト」の他、地域課題に関心のある方や学生も参加できる総会では、「多様な主体者と地域づくりを進めていく」と展望が語られ、同時開催の「ワーカーズフェスティバル」では、新しい労働者協同組合との交流も行われています。



誰も取り残さない働き方を、 世界の人々と共に。

上下関係や差別なく、共に生き、共に働く。
そんな思いを大切にする、世界中の仲間と集い、
社会課題の解決につながる働き方を広げていく。



各国とつながり、国際的な協同組合運動に参加しています

世界協同組合会議ICA総会 に参加

正式名称:ICA Global Cooperative
Conference 2024



2024年11月25～30日にインド・ニューデリーで開催された国際協同組合同盟(ICA)による世界協同組合会議・総会および関連会議に、ワーカーズコープ連合会として、南東北事業本部から宮城北エリアマネージャーの竹森幸太が参加しました。この世界会議は、2025年の国連国際協同組合年(IYC2025)の開始を記念するもので、世界100カ国以上から協同組合関係者が集結。私たちワーカーズコープ連合会は、日本の労働者協同組合運動や協同労働をアピールしました。竹森は、「人々のニーズや願いを実現する協同組合の一員であることに改めて誇りを持つことができました。この経験を日々の取り組みに活かします」と語りました。

価値あるIYC(国連国際協同組合年) にするために労協連のかかわりも



労協連が加盟している一般社団法人日本協同組合連携機構(JCA)は、「協同組合はすべての人によりよい未来を築きます」をテーマに第102回国際協同組合デー記念中央集会(2024年7月)を開催。地域社会に根ざした取り組みのモデルケースの報告に耳を傾け、参加者で共有しました。またIYC2025へ向けてJCAの山野徹会長(JA中央会会長)は、「持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けた協同組合の取り組み、とりわけ持続可能な地域社会をつくる日本の協同組合の取り組みをさらに進め、協同組合の認知を高める絶好の機会と捉えよう」と呼びかけました。IYCの認定事業として、映画上映会やシンポジウムを通じて各協同組合と連携し、協同組合の普及啓発に努めています。

協同組合の振興を図る決議、国会が採択

「国際協同組合年に当たり協同組合の振興を図る決議」が、2025年5月27日の衆議院本会議、28日の参議院本会議でそれぞれ賛成多数で採択されました。協同組合に関する国会決議は初めてのこと。

連合会 古村伸宏理事長は対談で、「国際協同組合年を、社会全体が“協同を問い直す”年とし、自然を基盤とした食・エネルギー・ケアの中から、協同の営みを紡ぎ出し、手ごたえのある“小さな協同”が縦横に連帯する地域と社会へ構造転換を進める契機としたい」と語っています。

COOPERATION

● 国際的な連携

ICA(国際協同組合同盟。世界107カ国の協同組合全国組織310団体が加盟する国際機関)、CICOPA(産業労働者・熟練工業者・サービス生産協同組合国際機構。世界35カ国のワーカーズコープ全国組織等51団体が加盟する国際機関)に加盟し、各年次総会への代表派遣などを通じて世界の協同組合・ワーカーズコープと積極的な国際交流を行っています。

● アジアでの活動

2021年にCICOPAのアジア太平洋地域組織(CICOPA-AP)の設立において中心的な役割を果たし、現在CICOPA-AP代表及びCICOPA副会長をワーカーズコープ連合会の役員が担当し、アジア太平洋地域を中心に世界のワーカーズコープ運動を牽引しています。

● 持続可能な社会実現のために

国連やILO(国際労働機関)のSDGs(持続可能な開発目標)や「ディーセント・ワーク」をテーマとする国際会議にも招聘され、ワーカーズコープの活動を通じた「持続可能で活力ある地域社会の実現」(労協法第1条)に向けて積極的な発信を行っています。

ワーカーズコープの仲間たちからあなたへ

さまざまな思い、さまざまな個性の仲間が、ワーカーズコープの組合員として働いています。
いま未来の新しい選択肢を探しているあなたへ。私たちのメッセージが、一歩を踏み出す力になれば、とてもうれしいです。

職場が好きな場所になれば 自然といい仕事ができる

福島にじいろ地域福祉事業所
安藤 一美（小規模保育園・園長）



前職の保育士時代に精神的にくじけてしまい、それでも「子どもや保護者に恩返しをしたい」と葛藤していました。ワーカーズコープと出会い、やりたいことを形にできたら、と入団。ここは「自分らしさ」を活かして働ける場所です。居場所をつくりたい人はぜひ！職場が好きなになれば、自然と自分や誰かのためにいい仕事ができると思います。

雇われて働いている時とは違う 責任とやりがいで人生を謳歌

栗原地域福祉事業所 ひありんく栗原
佐々木 よし江（自立相談窓口）



年金事務所を退職した際に、ワーカーズコープの面接を受けました。「ここは仕事おこしの法人です」と教えられ、ワクワクしたのを覚えています。入団後は経営の視点を持つようになり、信用を得て事業を継続するために、よい仕事をめざして自分で考え行動するなど、雇われて働いている時とは違う責任とやりがいを感じ、人生を謳歌しています。

「とりあえずやってみよう」と 前向きに挑戦できる組織

山形地域福祉事業所 陽だまり
斎藤 直人（放課後等デイサービス業務ほか）



地域のために何かしたいと思い応募。東北事業本部で採用になり、3か月間の研修後、多機能福祉施設こもれび（酒田市）に配属。その後現在の事業所に異動しました。仲間や地域の方と関わる中で、一人ではできないことも、いろいろな方の協力で形にできることを実感。「とりあえずやってみよう」「失敗してもいい」と、前向きに挑戦できる組織です。

全員が仲間として、同じように 責任を持ち大切にされる職場

鳴子地域福祉事業所 まるちゃん家
須藤 心（就労支援サポート）



企業の利益を最優先し、社会を顧みない仕事はしたくないと考えていた時に、就活サイトでセンター事業団を見つけ応募しました。2024年4月に全国事務局員として入団し、10月に現在の事業所へ。経験や能力や年齢に関係なく、全員が仲間として同じように責任を持ち大切にされる職場です。他にはない面白さがある働き方を、一回のぞきにきてください！

等身大の自分でいても 受け止めてくれる仲間がいる

南東北事業本部 宮城北エリア
竹森 幸太（事業所サポート）



お世辞にも真面目な学生生活を送ってこなかった自分。ワーカーズコープに入れば、少しでも人や社会の役に立てるかな？と考え入団。全国事務局員として東京と宮城でさまざまな分野の仕事に携わりました。等身大の自分でいても受け止めてくれる仲間がいるから安心できる職場です。「仕事」の中に「自己実現」を重ねて一緒に働いてみませんか？

声にすると必ず 誰かが手を差し伸べてくれる

鳴子地域福祉事業所 まるちゃん家
高橋 良子（管理者・サービス管理責任者）



二級訪問ヘルパー講座の受講後、仲間介護施設を立ち上げることに入団しました。介護事業、障がい者就労支援、地域の声を聞き施設を立ち上げる度に仲間が増え、お互い様の気持ちで、助け合うことの大切さを強く感じます。みなさんも、何事も一人で悩まないで。声にすると必ず、同じ思いの方が手を差し伸べてくれますよ。

労働者協同組合 ワークスコープ・センター事業団 南東北事業本部

〒980-0014宮城県仙台市青葉区本町2丁目19-21 CST共立ビル4階

お問い合わせ(メール) thkb@roukyou.gr.jp

本部
<https://jwcc.coop/>



南東北事業本部
<http://tohoku.jwcc.coop/>

